

生活プロデュース学科

職位	役職	氏名
教授	科長 ファッションコース主任	太田 奈緒
教授	医療事務・情報コース主任	小泉 綾
教授	インテリアデザインコース主任	水上 裕
教授	フードコース主任	吉川 光子
准教授		築瀬 千詠
講師		奥脇 菜那子
講師	子どもサービスコース主任	清水 一毅
講師		二見 総一郎

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	教授
教員氏名	太田 奈緒

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は生活プロデュース学科の教員として、主にファッションに関する授業を担当しているが、学科長として学科全体にかかわる授業も担当している。2020年度の担当科目は別記の通りである。ファッションコースは将来アパレル販売などを目指す学生が半数を占めるため、コミュニケーション力が増すような授業の組み立てをしている。

「ファッションプロデュース」においては、ファッションショーを企画・運営するための授業であるが、学生たちが主体的に考え行動し、ファッションショーを通して協働の必要性を認識することを目指している。

「女性のライフスタイル論」は、卒業前の2年生の必修科目であるが、6名の卒業生のお話をオンデマンド教材として活用している。卒業生の様々な人生経験を聞き、その翌週に関連する内容を対面授業で行っている。人生の岐路に立った時に自分で情報を得られ、自分で決められる人になることを目的としている。

また課外活動では写真サークルの顧問を務めている。コロナ禍で部員たちと外部に撮影には行けない状態であるが、それぞれの撮影したものを共有することで、サークルとしての自主的な活動が出来るようにサポートしている。

私の教育の責任は、これらの活動を通じて、学生たちの自主性、自分たちで考えて行動する力を育てることであると考える。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 学生たちが自主的に考え行動できるように、見守ること。

学生たちが、自分たちで考えたことを実行し、例えそれが失敗するとしても、途中で助言はするが手は出さない。失敗することによって、どうすれば成功するのかを考えることが出来るようになることが重要であると考える。

2) 専門知識だけでなく、生きていく力を身につけること。

学生たちが社会に出て、学生とは違う厳しい環境の中でも、自分で考え決断する力を持っていることが重要であると考える。

3) コミュニケーション力・協働力をつけること。

どんな仕事に就くとしても、一人で働くことは出来ないため、他人とのコミュニケーションの取り方、一緒に働く相手を思いやることが重要であると考える。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は上記の理念を実現するために、担当する科目において次のような工夫・方法を行っている。

1)「ファッションプロデュース」においては、モデルクラスと裏方クラスに分かれているが、お互いの理解を深めるために、裏方の学生にモデル学生にインタビューに行かせている。コースの違う学生間でのコミュニケーションは、最初なかなか上手くいかないが、何度も行うことにより、お互いのやりたいことを理解し、ショーの成功という一つの目標に向けて、一つの方向を向くことが出来るようになる。意見の衝突もあったりするが、それも自分たちで解決するように仕向け、一つのものを作り上げるには様々な人とコミュニケーションを取り、調整していかなければならないことを体験することにより学んでもらう。

2)「布おもちゃ製作」においては、おもちゃを作る際に対象となる子どもの年齢・性別を考え、それに合ったおもちゃを考えて作ってもらう。どんな遊び方をしてほしいかも考えて作るが、実際に遊んでもらうと全く異なる遊び方をする。またよいと思って選んだ色も、子どもたちにとっては、それほどでもないなど、実体験により学び、次の製作に生かすように助言を与える。

3)「女性のライフスタイル論」では、様々な経験をした卒業生に話をしてもらい、オンデマンドの教材とした。教員が例として話すよりも実際の先輩たちの人生を語ってもらうことで、学生たちは遠くない将来のこととして捉え、就職、結婚、出産、育児、転職、起業などを自分事として考えられるようになる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の授業評価アンケートでは「子供服と小物の演習A」で満足度3.93、「ファッションプロデュース」でも3.89、3.58という高い評価となった。ただ聞くだけの講義ではなく、自分たちで考え、企画し、実行するという授業を行ったことで、失敗体験も含め、達成感を多く感じた学生が多かったからだと考える。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用したりすることで、授業内容を組みなおしている。また授業評価アンケートの自由記述欄の学生からの言葉にも対応するようにしている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 担当科目の内容にSDGsの内容を取り入れる
- 2) 担当科目の内容にDXの内容を取り入れる(学生にわかりやすいように日常生活の中でのDXの内容とする)
- 3) オンデマンド授業を積極的に取り入れる

II. 長期目標

- 1) 男女共学に向けてジェンダーレスな教育内容を検討する
- 2) 学生たちの興味に合わせ柔軟に活用する
- 3) 学生の興味ある資格を検討し取り入れる

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・1限 28205501 [ファッション基礎実験] 太田 奈緒】

グループごとの実験内容でローテーションさせて、実際に一人一人が実験するようにしている。人数が少なかったため目が行き届いた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・2限 28205502 [ファッション基礎実験] 太田 奈緒】

木曜の授業に比べて人数が多かったため目が行き届かない場合がある。付いてくれていた教務補助さんが新人さんだったので、違うことを教えてしまったこともあり、実験がうまくいかなかった班もある。教務補助さんが慣れていない時は受講人数を少し絞った方がいいかもしれない。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・3限 22214502 [ファッションプロデュース] 太田 奈緒】

ファッションショーの裏方用の授業であったが、今年度から本厚木ミロードでもファッションショーを行うこととなり、湘北組とミロード組に分かれて授業を行った。初年度ということもあり、ミロード側の要求が後手に回ることがあり、準備期間が少なかったと感じた学生が多かった。次回からはこちらもミロード側も経験出来たので違った対応が出来ると思われる。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 R3204501 [女性のライフスタイル論] 太田 奈緒】

卒業生のお話をオンデマンドにして、それを見た翌週に関連した内容を行うことで、自分事として考えられたと思われる。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	22237001	布おもちゃ製作
前期	生活プロデュース	1	28205501	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	1	28205502	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	2	30203501	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	1	22206001	子供服と小物の演習
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	30204001	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	生活プロデュース	2	R3204502	女性のライフスタイル論

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22209001	ファッション販売論
前期	生活プロデュース	1	22237001	布おもちゃ製作
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	2	22213501	ファッションコーディネート演習
前期	生活プロデュース	2	30203501	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	1	22206001	子供服と小物の演習
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	30204001	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	教授
教員氏名	小泉 綾

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科に所属しており、主に健康教育、運動分野に関する科目を担当する専任教員である。学科の中では、主として運動、健康、介助に関わる科目を担当している。また、リベラルアーツセンターにも所属し、主としてリベラルアーツ科目の必修科目であるスポーツ科目（生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ）の取りまとめを担当している。

主な担当科目や課外活動については、以下の通り。

1)生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ

以下のような内容を目標としている。

- ①自発的にスポーツに取り組むための知識や方法を理解する。
- ②身体運動を行うことで自分の身体や精神の状態を把握し、自己の健康保持増進に役立てられるようになる。
- ③他者と協力しながら一緒にスポーツに取り組むことを通じて、社会性を身につけコミュニケーション能力を高める。
- ④感染症、生活習慣病、救急法など、普段の生活に即した健康に関わる知識を深め、健康的な生活が実践できるようになる。

2)健康科学

以下のような内容を目標としている。

- ①健康の重要性を理解し、健康に関わる身体の構造や機能について理解する。
- ②さまざまな体内リズムについて学び、生活習慣や健康とどのように関係しているかについて、科学的に理解する。
- ③学びの内容から自分の日常生活を見直し、自他の健康を維持する方法を身につける。
- ④「健康管理能力検定2級」を受験し、合格を目指す(任意)。

3)からだのしくみと機能

以下のような内容を目標としている。

- ①身体の基本的な構造や仕組みについて、解剖学的観点から理解する。
- ②身体の基本的な機能について、生理学的観点から理解する。
- ③さまざまな疾病(病気)について学び、治療や予防方法の基礎について理解する。

4)サービス介助演習

以下のような内容を目標としている。

- ①サービス介助士に合格するための知識・技術を習得する。
- ②相手の立場を考え行動できる「ホスピタリティ・マインド」を向上させる。
- ③相手にとって安全で安心できる「正しい介助技術」を身につける。
- ④障害の社会モデルを理解し、普段の生活の中で何が社会の障壁になっているのかについて気付く。

5)課外活動の指導

永年に渡って学科の学生委員を担当し、学科における学生指導の主担当をしている。

課外活動では、スポーツ大会実行委員会の顧問を担当し、各月に行うミニスポーツ大会や全学行事「スポーツ大会」や学内でのスポーツ活動をサポートしている。

体育館や多目的グラウンドの施設管理も行なっており、授業や課外活動で安全かつ有意義な活動できるように留意している。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が主体的に考える能力を磨くことや、健康的な生活や行動を選択できる能力を磨くことである。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の5点を重視している。

- 1) 自らの生涯にわたる健康について考え、生涯楽しく充実した生活を送るための知識や方法、能力を身につけること
- 2) 知的好奇心を満たすことや学び続けることは、本来楽しいことなのだ、ということについて、実感を伴って知ってもらうこと
- 3) 教員と学生が「良好な人間関係を築く」ということが、良い教育を行う基盤となること
- 4) 一人ひとりの学生に対し平等に寄り添い、学生指導を丁寧に行うこと
- 5) 即物的ではない「自らの価値観」を育む教育を行うこと

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業や課外活動での指導において次のような工夫を行なっている。

1)生涯スポーツと健康Ⅰ及びⅡ

- ・授業中に怪我や事故が起きない準備や配慮をする。
- ・その日の授業で実施する授業内容や運動の「意味」について丁寧に解説する。
- ・実際の授業内容に直接活かせる課題で予習復習を行う。
- ・授業で扱った内容を自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポート課題や筆記試験などで確認をする。
- ・できなかったことができた時、達成感や喜びを分かち合えるような授業展開を心がける。

2)健康科学

- ・最新の知識やデータをもとに健康について科学的に捉えられるような授業を展開する。
- ・学生の意見や感想、疑問について、Googleフォームを使って収集し、まとめたものを次の週に授業でフィードバックしている。
- ・授業で扱った内容を自己の生活にどのように活かせるか、活かしていけるかについて、レポートや筆記試験などで確認をする。

3)からだのしくみと機能

- ・解剖学・生理学の専門的な内容をふんだんに扱う授業であるため、難しい内容はなるべく理解しやすいように説明を工夫する。また、具体的な例を教材に盛り込む。
- ・解剖生理学について、最新の知識やデータをもとに科学的に捉えられるような授業を展開する。
- ・学生の意見や感想、疑問について、Googleフォームを使って収集し、まとめたものを次の週に授業でフィードバックしている。それらは、受講者が理解できているかを知るための指標にもなっている。
- ・受講する医療事務・情報コースの多くの学生が、将来目指す医療関係の職業に活かせるような内容を授業に盛り込む。

4)サービス介助演習

- ・障害者や高齢者の視点で他者に配慮できる介助技術を目指す指導を心がける。
- ・障害の社会モデルを主軸とした授業展開を行い、ノーマライゼーションについて知ることで物事を広い視野で捉えることの大切さについて気づきを促す。

5)課外活動の指導

- ・施設設備の利用にあたってルールを守ることを指導している。
- ・事故を未然に防ぐことや、感染症対策も含め、安全にスポーツ活動を行うことへの指導と配慮、準備をしている。
- ・スポーツ施設を利用する学生に積極的に声かけをし、コミュニケーションを密に取ることを心がけている。
- ・コロナ禍で活動が衰退してきている団体への声かけをしている(これに関しては、今後の大きな課題である)。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

全体的な総括で述べると、2022年度の学生による授業評価アンケートでは、概ね学生からの評価は良かった。

学生は、コロナ禍によるオンラインやオンデマンドの利用も随分慣れて来ている。授業では、それらを効果的に取り入れつつ、3であげたような具体的かつ分かりやすい授業展開の工夫や、Googleフォームを使って感想や意見を集めフィードバックを丁寧に行うことを心がけた。

これらの積み重ねが功を奏したのか、学生からのコメントを見ると概ね満足度も高かった。よって、おおよそ目標は達成したように思う。

ゼミナールの授業評価が顕著であるが、学生との良好な人間関係を築くことやコミュニケーションを密に取ることは、今年度は特にうまくできたように感じる。今年度のスポーツ活動も、コロナ禍の影響で昨年度同様ままならなかったが、就学支援や就職活動を個別指導で親身に行った分、学生の満足度は比較的良好となったのだろうと推察される。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

今後の授業改善への取り組みとしては、以下の4点について取り組むこととする。

- 1)今年度までと同じように、受講者とのコミュニケーションを丁寧に行うことを心がける。Googleフォームなどのツールを効果的に使用し、受講者の理解度や疑問・質問などをなるべく拾いあげ、フィードバックするように努力する。
- 2)相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加をする。それらを通じて、自らの授業を客観的かつ俯瞰的に捉え、ブラッシュアップできるよう努力を継続する。
- 3)学会や研究会での研究活動を積極的に行い、他大学の教員や教育と積極的に接点を持つ機会を増やす。
- 4)スキーを通じた社会的活動の幅を広げ、自身の教育に還元する努力をする。
 - ・学生だけでなく子供～高齢者への指導を積極的に行う。
 - ・公認スキーパトロールとしての活動の幅を広げる努力をし、救急処置や搬送技術について知識や技能を深める。

今後の教育に関する短期目標、長期目標は、それぞれ次の通りである。

I. 短期目標

- 1)授業教材のブラッシュアップ(最新の話題やデータを積極的に使う、PPTの工夫など)
- 2)オンラインやオンデマンド授業の積極的・効果的な導入を継続する(サービス介助など)。それに並行して、実技演習科目の充実も計る。

II. 長期目標

- ・学科の専門科目やLA科目としてのスポーツ科目、健康教育関連科目の充実(選択科目の導入など)

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・2限 R2281001 [からだのしくみと機能] 小泉 綾】

担当初年度だったので、全て今後活かしていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・3限 30203503 [ゼミナールⅠ] 小泉 綾】

学生とのコミュニケーション

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・1限 22LA0805 [生涯スポーツと健康Ⅰ] 小泉 綾】

多動傾向がある学生、話を聞かない学生、遅刻や欠席が多い学生、脳性麻痺のある学生などが混在しているクラスで、人数も51名と多く、毎回非常に混沌とした授業展開になってしまうクラスでだった。

授業中の個別対応が多く全体にまとまりがなく指導が不足していたことが残念。

後期は私はこのクラスは担当しないが、授業方法を考えないとならないクラスである。

状況によってはTTを導入する必要がある。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・3限 30204003 [ゼミナールⅡ] 小泉 綾】

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・4限 22LA1005 [生涯スポーツと健康Ⅱ] 小泉 綾】

実技科目でなかなか難しいことだが、予習復習の課題を出しても良いかもしれない。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	R2281001	からだのしくみと機能
前期	生活プロデュース	2	22241501	子どものワークショップ演習Ⅱ
前期	生活プロデュース	2	30203503	ゼミナールⅠ
前期	リベラルアーツ(生活)	1	22LA0806	生涯スポーツと健康Ⅰ
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0805	生涯スポーツと健康Ⅰ
後期	生活プロデュース	1	22237501	子どものワークショップ演習Ⅰ
後期	生活プロデュース	1	22244501	サービス介助演習A
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	31218501	健康科学
後期	生活プロデュース	2	22244502	サービス介助演習B
後期	生活プロデュース	2	30204003	ゼミナールⅡ
後期	リベラルアーツ(生活)	1	22LA1007	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA1005	生涯スポーツと健康Ⅱ

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	R2281001	からだのしくみと機能
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R5280001	ヘルスケア業界研究
前期	生活プロデュース	2	30203503	ゼミナールⅠ
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0805	生涯スポーツと健康Ⅰ
前期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA0806	生涯スポーツと健康Ⅰ
後期	生活プロデュース	1	22244501	サービス介助演習A
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	31218501	健康科学
後期	生活プロデュース	2	22244502	サービス介助演習B
後期	生活プロデュース	2	30204003	ゼミナールⅡ
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA1005	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ(総合)	1	22LA1006	生涯スポーツと健康Ⅱ
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs
後期	リベラルアーツ(総合)	2	22LA1009	生涯スポーツと健康Ⅱ(留)

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	教授
教員氏名	水上 裕

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学生活プロデュース学科に所属し、インテリアデザインコースのコース主任である。主にインテリアや住環境に関する科目を担当し、インテリアデザインコースをマネジメントしている。一方、自立した女性を育てる学科共通科目や社会人基礎力を高める科目を担当している。
2023年度の担当科目は、別記のとおりである。
生活プロデュース学科は、心身ともに快適で豊かな生活を創り出していくとともにビジネス社会で活躍する女性を育てるため、学生が社会人になる前に、快適な住まいや安全な住環境の知識を身につけ、住空間の企画・計画提案ができるよう指導している。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、以下の3点を重視している。

- 1) 学生が健康的な暮らしに必要な知識と技術を身につけ、自己管理能力を磨き続けること。
(学生は、自らの安全、安住、健康管理を心がける生活習慣を身につける)
- 2) 学生に目的意識を持たせ、目標をたててゴールに向けて努力し、到達することができるようサポートすること。
(学生は、学生生活を充実させ、専門能力を高めることで自信をつける)
- 3) 生活者の立場を基盤としつつ、ビジネス社会で活躍できる実践的な内容を優先すること。(学生は、就職活動での自己PR力を高めるとともに未来を見据えた行動を行う)

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の教育の理念を達成するため、次のような授業を行っている。

「環境と暮らし」の授業では、拙著「インテリア・ガール」を活用し、住環境や住宅建築の理解を深め、健康で快適に暮らすための住まいと住まい方を身につけるよう工夫している。学生は卒業後にも役立つオリジナルノートを作成させている。

「インテリアコーディネーションⅡ」の授業では、インテリアデザイン技能検定をレバレッジに設計技能を磨く。学生は設計技術を身につけることと時間内で仕上げることの2点について予習・復習を重ね、段階的に設計技術が身につくことで自信をつける。

「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では学びの集大成として、店舗併用住宅の設計指導を行っている。学生は、インテリア実技、インテリアコーディネーションⅠ・Ⅱ、食空間プランニング、インテリア構法等と連携した学びであることを理解し、更に発展させようと目標を定め、予習・復習に励み、成果を上げる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2年後期科目「環境と暮らし」では、オリジナルテキストの活用だけでなく、最新の専門書・専門雑誌内容を点検し、学生の興味関心を引き出すよう内容の充実を図った。学生の学習度を見ながら有用な情報を提供し集中力を高めた。授業評価アンケートの結果は執筆時未定、授業種別ごとの集計として本学 Web サイトで公表予定。

1年後期の旧科目「インテリア設計Ⅱ」では、インテリアデザイン技能検定合格を目標に掲げ、製図の技術を身につけることだけでなく、時間内に仕上げなければならないため、集中力を高めるというレバレッジ効果があった。インテリアデザインコースの学生が受験し成果を上げることができた。合格率は執筆時未定、今後、事業計画と自己点検・評価報告書にて公表予定。

通年科目「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、インテリアショールームのディスプレイや卒業制作を行なった。学生は授業時間外にも教室にて熱心に取り組み、卒業制作展を開催することができた。そのプロセスは就職活動において自己PR力の強化につながり、ゼミ生の実就職率につなげることができた。就職率は執筆時、継続中により未定。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。今後の教育に関する目標は次のとおりである。

- 1.学修成果の見える化を実践する。
- 2.インテリア実技において、ループリックを更新し、学習成果を上げる。
- 3.資格取得をレバレッジに学力向上、合格率アップを目指す。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 28225501 [インテリアコーディネーション] 水上 裕】

インテリア模型製作の基本マスターと一室空間のイメージを形にする演習に取り組む授業である。授業アンケートQ2「予習・復習への取組み」において、学科平均値が2.21に対し、本授業では3.33、Q3「授業への取組み」は同3.52に対し3.78と比較的高い値であった。一方、Q8「授業のわかりやすさ」について、学科平均が3.47に対し、本授業では3.78、Q9「授業の満足度」も3.78と高い値であった。このことから、学生はやりたいことに夢中で取り組むことができ、授業の目標も概ね達成したと実感することができたと思われる。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・3限 28230001 [インテリア設計Ⅲ] 水上 裕】

一戸建ての住宅を設計し模型を完成させる授業。授業アンケートQ9「授業の満足度」が3.50に対し、Q8「授業のわかりやすさ」は3.13と低い評価であった。一方、Q2「予習・復習への取組み」において、学科平均値が2.21に対し、本授業では2.88、Q3「授業への取組み」は同3.52に対し3.63と比較的高い値であった。このことから、学生は熱心に取り組んだものの、授業の目標が高く、提供する情報が多すぎて理解しきれなかったと考えられる。今後は設計条件を緩和するとともに、もっと興味・関心を引き出し、学生の声を受け止めながら授業展開を図っていく。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・2限 26224502 [環境と暮らし] 水上 裕】

住環境や住まい方を理解し、安全で快適に暮らすための知識や考え方を学ぶ授業。コースの枠を超えた学びとして47名が受講。授業アンケートでは、「授業資料」について3.58、「満足度」も3.42と講義科目としては比較的高い値であった。コロナ禍でワークショップを避けた分、時間配分を工夫し、補助教材・プリントには視覚的な工夫をし、一方向授業とならないよう発表の機会なども設けた点が評価につながった可能性がある。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・3限 30204002 [ゼミナールⅡ] 水上 裕】

卒業制作として店舗併用住宅を企画し、図面と模型を成果として美しくまとめる授業。

授業アンケートQ3「授業への取組み」は学科平均値が3.67に対し3.00と低い値であった。一方、「予習・復習」は学科平均値が1.99に対し2.67と高い値であった。また、Q9「授業の満足度」が学科平均値3.68に対し3.00、Q8「授業のわかりやすさ」も3.00と低い評価であった。少人数制ではあるものの、事情を抱えた指導困難学生4人にとって、授業の目標が高く、提供される情報も消化不良でモチベーションが上がらなかったと考えられる。今後は課題条件を緩和するとともに、もっと興味・関心を引き出し、学生の声を受け止めながら授業展開を図っていく。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
✓	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

資料1:テキスト(インテリアガール),資料2:学習プロセス・授業の様子(1125インデプロのシアタールーム完成),資料3:ゼミナール卒業制作展0203

・関連リンク・別途資料

https://drive.google.com/open?id=1kUETiIWr3TmSqX_SdWSeYSW20x547LWB,
https://drive.google.com/open?id=1TzZ23Y7pBbgil--Px1s4OfmPBUJ_82fD,
<https://drive.google.com/open?id=1HnDUq7E4nz09VEKW5EJ3sRhtJYUddKyD>

・特記事項

特になし

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	26224503	環境と暮らしA
前期	生活プロデュース	1	26226001	インテリア設計 I
前期	生活プロデュース	1	28225501	インテリアコーディネーション
前期	生活プロデュース	2	28230001	インテリア設計Ⅲ
前期	生活プロデュース	2	30203502	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1	28229502	インテリア設計Ⅱ
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	24234501	インテリアデザインプロデュース
後期	生活プロデュース	2	26224501	環境と暮らし
後期	生活プロデュース	2	26224502	環境と暮らし
後期	生活プロデュース	2	30204002	ゼミナールⅡ
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0209	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0409	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0509	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	26224502	環境と暮らしA
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R5225501	インテリアコーディネーション I
前期	生活プロデュース	1	R5290001	インテリア実技
前期	生活プロデュース	2	28230001	インテリア設計Ⅲ
前期	生活プロデュース	2	30203502	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	R5290501	インテリアコーディネーションⅡ
後期	生活プロデュース	2	24234501	インテリアデザインプロデュース
後期	生活プロデュース	2	25205003	色彩学C
後期	生活プロデュース	2	26224501	環境と暮らしB
後期	生活プロデュース	2	30204002	ゼミナールⅡ
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0207	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0407	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0507	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	教授
教員氏名	吉川 光子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は生活プロデュース学科の教員として、専門教育科目の「食生活と健康」「食品と調理」「クッキングⅠ」「クッキングⅡ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「食の企画と演出」を担当している。あわせて学科共通科目の「ライフスタイルマネジメントの基礎」「ライフキャリアプランニング」を他の専任教員と共に担当している。

私の責務は、学生が食物と食生活について適切な知識や技能を身につけ、生涯にわたり、健康で豊かな食生活を実践できるように教育することである。また、学ぶことの楽しさ、その価値に気づかせ、卒業後仕事の現場にあっても常に学び続ける姿勢をもつよう教育することである。それは知識を与えることにとどまらず、演習や実習を通し学生自らが考え動けるよう環境を整え、学生が総合的な力をつけるための学びの機会を整えることが重要と考えている。フードコースの主任として、他の教員との協力のもと、その責務を果たしている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は本学での教育活動において次の3つを重視している。

1. 食に関して広い視野と柔軟な思考をもち、諸問題に対応できる人を育成する。
2. アクティブラーニングの場を整え、学生が周囲の人々とコミュニケーションをとりながら学び、成長する過程をサポートする。
3. 学生自身の学びに対するモチベーションを高めることで「主体的な意欲・行動」を引き出す。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

上述の理念を実現するため、毎年授業内容と授業展開を見直し、同じ内容でも伝え方の工夫を重ねている。「クッキングⅠ」「クッキングⅡ」(2022年度までは科目名称「トータルクッキングⅠ」「トータルクッキングⅡ」)はフードコースの全員が受講する科目であるが、学生が主体的に参加して調理の手法を学ぶだけでなく、グループでコミュニケーションをとりながら作業を行う。日常の食事から、初めて食べる異国の料理、行事食まで「自分が作る」経験をし、「食」に関する視野を広げるとともに、「食」が身体だけでなく精神面に影響を及ぼすこと、社会的側面、自分と異なる他者の嗜好について、など様々な気づきを得られるよう図っている。

食に関する知識と技能の定着には、習った知識を他者に教える、料理を作って共食する、といった行為が効果的であるため、家庭での調理を推奨し、学生が自然に繰り返し学習できるように努めている。

2021年度から、調理の工程の一部を自宅で予習、復習するためのオリジナル動画の作成およびe-ラーニングでの配信を行い、教材として使用した。

「食の企画と演出」「ゼミナールⅠ、Ⅱ」はアクティブラーニング主体の科目であるが、複合的な学びの中で学生の主体性を養い総合的な力をつけたい。2022年度には、JAあつぎとの連携で、成果を発揮する機会を得た(地元野菜を使ったお弁当を考え、調理し、TVK「かながわ旬菜ナビ」で紹介された)。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度授業評価アンケートの結果より

全体的に実習科目は学科平均よりも評価が高かった。

【トータルクッキングⅠ（前期）】

この科目は全体的にはポイントが高い科目であるが、設問2に注目し、改善について考えたい。というのは、2020は3.15、2021は2.84であったが今年度は2.69と下がっていた。この実習は90分2コマで行うが、事前にレシピを配布してあり予習をすることができる。また、授業後には必ず振り返りのシートを記入すること、各授業ごとにレポート作成を課している。それらに取り組むことで1週間の予習・復習時間はおのずと1時間半～2時間もしくはそれ以上となるはずである。しかし1時間半以上の回答は30%であった。改善する点としては、予習の奨励、課題には時間を置かずにていねいに取り組むことの声掛けをしていきたい。

【トータルクッキングⅡ（後期）】

トータルクッキングⅡでは、授業への満足度が高く（設問9）全体的にも例年より高い評価になった。学生がコロナ対応でしなければならない消毒や黙食などにも慣れ、実習の内容に集中することができたためと考えられる。また授業終了時刻を過ぎないように開始時間を早めたり、調理過程での目標時刻を伝えたりすることで無理なく終わらせるペースづくりができた。自由回答では「後期になり他国の料理を学び、とても充実しました。家で作ることも増えてレシピも前期より早めに取り組み課題も溜めずに済みました。」など、前期のトータルクッキングⅠの自身の反省を生かして取り組んだという声が見られた。

【食生活と健康】

この科目はフードコース1年生前期に設置され、2年間の学びの基礎をつくり、また食に関する学びに関心を広げていく導入科目としての位置にある。そのため内容を整え、十分な準備をおこなった上で講義を行っている。昨年は、授業評価アンケートの結果が3.38（設問B平均）と学科の平均を下回る状況であったが、昨年度のアセスメントをふまえ、スライドの文字、授業スピード、学生同士の私語への対応の改善を行い、内容についても見直しを行った結果、今年度は3.56（設問B平均）と評価ポイントが上がっていた。また自由記述には、「映像で食品ロスのこととか面白くてとても興味を持ちながら授業が受けれたし、理解出来て良かったです！」などのコメントがあり、他の科目「生活プロデュース概論」で取り上げた「食品ロス」のテーマについて、さらに時間をかけ、違う角度と教材からアプローチしたことで、満足度が高くなったことが明らかだった。

【食品と調理】

この科目は、過去2年間オンラインで実施していた。今年度は3年ぶりの対面での実施であり、対面だからこそできる演習（味わって比較する、見て触って観察する）などを実施することができた。しかし、全体的な評価はオンラインの時の方が高かった。原因としては、設問5で「進行の速さが適切でなかった」とした学生が20%いたことが大きい。今年度は受講生のうち35%がフードコース以外のコース生であり、他の科目で基礎的な事項を学んでいない学生が受講していることを考えると（履修条件には履修していることが望ましい科目を表記）、講義のスピードなども考慮すべきであったことが改善点として挙げられる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

学内で開催されるFD、SD研修にはほぼ毎回参加している。また、授業参観週間には他の授業を見学し、参考にできる点を探している。毎年のシラバス作成時には、前年度の授業評価アンケートの結果や学生が書いた振り返り、直接の対話で得られた情報をふまえ、授業内容や構成についてアップデートしたシラバスとなるよう努力している。

今後の目標

1) 短期的な目標

1. 「わかりやすさ」を学生側の視点から検討する。
2. 「役立ち感」が得られる中身の工夫。
3. 講義、実習に落ち着いて取り組める環境づくり。

2) 中・長期的な目標

1. フードコースの科目間の連携をはかり、2年間の学びを通し総合的に効果が上がるように履修モデルを整える。
2. 地域に貢献できるような学びの導入。
3. 学生や卒業生が学年を超えて互いに関わりをもち、学び合い、高め合える機会を提供する。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・1限 23216501 [トータルクッキング I A] 吉川 光子】

この科目は全体的にはポイントが高い科目であるが、設問2に注目し、改善について考えたい。というのは、2020は3.15、2021は2.84であったが今年度は2.69と下がっていた。この実習は90分2コマで行うが、事前にレシピを配布してあり予習をすることができる。また、授業後には必ず振り返りのシートを記入すること、各授業ごとにレポート作成を課している。それらに取り組むことで1週間の予習・復習時間はおのずと1時間半～2時間もしくはそれ以上となるはずである。しかし1時間半以上の回答は30%であった。改善する点としては、予習の奨励、課題には時間を置かずにていねいに取り組むことの声掛けをしていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・1限 R3216001 [食生活と健康] 吉川 光子】

この科目はフードコース1年生前期に設置され、2年間の学びの基礎をつくり、また食に関する学びに関心を広げていく導入科目としての位置にある。そのため内容を整え、十分な準備をおこなった上で講義を行っている。昨年は、授業評価アンケートの結果が3.38(設問B平均)と学科の平均を下回る状況であったが、昨年度のアセスメントをふまえ、スライドの文字、授業スピード、学生同士の私語への対応の改善を行い、内容についても見直しを行った結果、今年度は3.56(設問B平均)と評価ポイントが上がっていた。また自由記述には、「映像で食品ロスのこととか面白くてとても興味を持ちながら授業が受けれたし、理解出来て良かったです！」などのコメントがあり、他の科目「生活プロデュース概論」で取り上げた「食品ロス」のテーマについて、さらに時間をかけ、違う角度と教材からアプローチしたことで、満足度が高くなったことが明らかだった。

■後期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【金曜・3限 23221501 [トータルクッキング II] 吉川 光子】

トータルクッキング II では、授業への満足度が高く(設問9)全体的にも例年より高い評価になった。学生がコロナ対応でしなければならない消毒や黙食などにも慣れ、実習の内容に集中することができたためと考えられる。また授業終了時刻を過ぎないように開始時間を早めたり、調理過程での目標時刻を伝えたりすることで無理なく終わらせるペースづくりができた。自由回答では「後期になり他国の料理を学び、とても充実しました。家で作ることも増えてレシピも前期より早めに取り組み課題も溜めずに済みました。」など、前期のトータルクッキング I の自身の反省を生かして取り組んだという声が見られた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【火曜・3限 R2220501 [食品と調理] 吉川 光子】

この科目は、過去2年間オンラインで実施していた。今年度は3年ぶりの対面授業となり、演習(味わって比較する、見て触って観察する)などを取り入れて理解しやすい授業になるよう準備し実施した。しかし、全体的な評価はオンラインの時のほうが若干高かった。原因としては、設問5で「進行の速さが適切でなかった」とした学生が20%いたことが大きい。今年度は受講生のうち35%がフードコース以外のコース生であり、1年半の間の既習事項の差を考えると(履修条件には履修していることが望ましい科目を表記)、講義のスピードなども考慮すべきであったことが改善点として挙げられる。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	23216501	トータルクッキングⅠA
前期	生活プロデュース	1	23216502	トータルクッキングⅠB
前期	生活プロデュース	1	R3216001	食生活と健康
前期	生活プロデュース	2	26222001	食の企画と演出
前期	生活プロデュース	2	30203504	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	1	23221501	トータルクッキングⅡ
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	30204004	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R2220501	食品と調理

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	R3216001	食生活と健康
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R5216501	クッキングⅠA
前期	生活プロデュース	1	R5216502	クッキングⅠB
前期	生活プロデュース	2	26222001	食の企画と演出
前期	生活プロデュース	2	30203504	ゼミナールⅠ
後期	生活プロデュース	1	24238701	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1	24238702	接客サービス特講
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	R5221501	クッキングⅡ
後期	生活プロデュース	2	30204004	ゼミナールⅡ
後期	生活プロデュース	2	R2220501	食品と調理
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	准教授
教員氏名	築瀬 千詠

1. 教育の責任（何を行っているか）

2022年度の担当科目は別記(教務課作成)の通りである。

(1)「ゼミナールI,II」:テーマは「映画で学ぶ社会学～SDGsで知る世界のいま～」。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会的な視点から、作品制作者の意図や描かれたテーマとその背景を探り、作品を論評することができる。②テキストを活用し、SDGsを切り口として実社会における諸課題を知り、自分のキャリアを考える上で参考にすることができる。③コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけ、就職活動に自信を持って臨むことができるようになる。

(2)「オフィスワーク演習」:学科の共通必修科目の主担当であり、学科教員が代々作成してきた学科独自のテキストの改編も担当している。授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①社会人としての常識や心構え、職場に必要なビジネスマナーが身につく。②練習問題やロールプレイングに繰り返し取り組むことで、臨機応変に自分で考え、話し、書く力がつく。③職場で使われるコミュニケーション手段の特徴を理解し、使いこなせるようになる。④インターンシップや就職活動に自信を持って臨めるようになる。⑤授業で身につけたことは、就職後も役に立つ。

(3)「生活とSDGs」:2022年度は全学でSDGs教育に取り組む「SDGs教育元年」との位置づけであるが、科目名にSDGsを冠した最初の科目としてスタートした。授業の到達目標は以下の通りである。①国連のSDGs(Sustainable Development Goals)17のゴールの内容を理解し具体的に説明できるようになる。②SDGsのものさしを使って、自分の周りの社会課題を見つけその原因や解決策の選択肢を考えられるようになる。③自分の意見を持ち、他者の異なる考え方を客観的に聞くことができるようになる。④SDGsの視点で社会や企業活動を捉える経験を重ねることにより、1年生後期のインターンシップや就職活動にむけた心の準備ができる。

(4)「現代女性の社会学」:授業の具体的到達目標は、以下の通りである。①現代に生きる女性が抱える様々な課題について客観的に考察できるようになる。②卒業後のライフキャリアプランについて、具体的な見通しを持つことができるようになる。③国連SDGs(Sustainable Development Goals)への理解を深め、地球規模の課題解決に必要な視点や自分自身にできることを考えられるようにする。④グループワークを通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が身につく、就職活動に活かすことができる。

(5)「ライフキャリアプランニング」:学科教員全員が関わるオムニバス科目であり、主担当は学科長であるが、私は15回中5回を担当し、金融リテラシー教育、消費者教育を担っている。特に、2回にわたり実施する「生活設計マネープランゲーム」は、学年全員がグループでゲームを楽しみながら今後の人生で起きるライフイベントとお金の計画について学ぶ機会を設け、好評である。

(6)「女性のライフスタイル論」:学科の共通必修科目で主担当は学科長であるが、オンデマンド動画の卒業生インタビュー、年金や失業保険などの社会保障制度について社会人として必要な知識を教えている。

以上の通り、私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生に様々な「気づき」を与え、一人ひとりの自立を促してより良い人生を歩めるように導くのと同時に、自分の能力や才能を他者のために惜しみなく使える人間を育てることにある。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において「社会人基礎力を身につけること」を重視している。社会人基礎力とは、以下のような力である。すなわち、主体的に取り組む力、他者に働きかける力、実際に行動する力、課題を発見する力、計画的にものごとを進める力、新しいことを創造する力、自分の考えを他者が理解できるように発信する力、人の意見を聴く力、異なる意見や立場を理解する力、状況を客観的に判断できる力、ルールを守る力、ストレスをうまくコントロールする力である。これらの様々な力は、卒業後、長い人生を生きていく上で欠かせないものである。在学中のあらゆる局面を教育機会ととらえ、学生自身が「気づき、学び、身につける」ことを大切にしている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の教育理念を実現するため、担当授業において、次のような工夫・方法を実践している。

(1)「ゼミナールI,II」:文部科学省選定・特選に選ばれた内外の優れた映画作品を鑑賞し、社会、歴史、家族、結婚、働き方、ジェンダーなど社会学的視点から読み解いていく。映画の題材から各自で興味関心を持ったテーマを設定し調査と考察内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションしてもらう。同じ作品でも、人によって感じ方やとらえ方が異なるという発見を共有し、そこから自分自身のライフデザインについても考えさせている。また、官公庁や企業の研修でも採用されている「2030SDGsゲーム」を通じて、地球規模の課題を「自分ごと」とし、自分は社会にどう貢献していくかについて同世代の仲間と一緒に考えてもらうようにしている。教員が教科書で何かを教え込むのではなく、色々な専攻コースに所属するゼミ生が「多様な体験を共有し、互いに影響しあって伸びていく」こうしたゼミを目指している。

(2)「オフィスワーク演習」:就職活動がスタートする直前の1年次後期に開講しており、講義と演習を組み合わせ、将来様々な職場で働く際に必要となる社会常識やビジネスマナーを身につけることを目指している。敬語の使い分け、礼儀作法、ビジネスレターやメールの基本マナー、来客応接や電話応対を網羅し、応接のロールプレイングなどを通じ、学んだことが確実に身につくよう指導している。

(3)「生活とSDGs」:SDGsに関わる課題は国際関係から身近な生活に至るまで幅広く存在する。このため、教員が常に教材探しや外部研修受講を通じて新しい情報を得て授業に活かせるよう工夫を重ねている。教材としては、SDGs.TVが提供する国連やNPO,NGOなどの機関が作成した信頼できる動画の活用、「SDGsババ抜き」や「2030SDGsゲーム」といったグループワークの活用、若手起業家で農業の技術革新に取り組む豊永翔平氏を特別講師として招聘し気候変動の実態と農業の現場の声を聞く機会を作るなど、学生にSDGsの目標達成を「自分事」として捉えてもらう授業を目指している。2020年以降、教員が取得したSDGs関連の資格は4、外部研修参加も積極的に行ってブラッシュアップに努めている。

(4)「現代女性の社会学」:「社会学」の基礎知識をとり入れつつ、現代女性の抱える様々な課題について具体的に考えさせる。課題図書リストを提示し、期間中に各自一冊を図書館で借りて800字程度の要約と感想を提出させている。各回の授業では以下のようなアクティブラーニングの手法を用いている。①学生が周囲の大人にインタビューする宿題を三回にわたり課し、女性のライフコース、結婚のメリット・デメリット、子育ての経験談を取材させる。学生はそれらの材料をもとに、グループディスカッションで同年代の仲間と活発に意見を出し合う。個別のケーススタディから、社会全体に視野を広げ、卒業後のライフイベントをめぐる課題と、その背後にある問題や社会的要因を理解し客観的に考察する。②学生にも人気のテレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」を教材に、家事は無償労働か?という主題はもとより、様々な登場人物の生き方にフォーカスし社会の中に存在する多様な生き方に気づかせ、グループディスカッションを実施する。③教員がファシリテーター資格を有する2030SDGsゲームを体験し、地球規模の課題解決に社会の個々の構成員がどのように関わり、どのような役割を果たすべきか、楽しみながら考える機会を提供している。

(5)「ライフキャリアプランニング」:金融リテラシー分野の5回について、家計簿アプリの活用による課題、生活設計マネープランゲームのグループワーク実施などを行っている。

(6)「女性のライフスタイル論」:卒業生のインタビュー動画作成(主担当は学科長)、自分の担当回では、国の女性政策や社会保障制度の基本的な事項について、あえて官公庁のウェブサイトや学生に閲覧させることにより、一次情報を得ることや読み取ることの重要性を認識させている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果について以下2科目について述べる。

1. ゼミナールIIでは学生の取り組み度合い3.71、満足度3.64、教員の熱意ある指導3.79といずれも高い評価を得た。後期はグループごとに卒業研究を実施したが、グループごとに進捗状況を把握し、ディスカッションで気づきを引き出したり、資料を紹介するなど自律的な学びができるよう工夫した。その結果、卒業研究発表会では質の高い発表がなされ、学生の満足度も高くなったと考えられる。
2. オフィスワーク演習は、同じシラバス、同じテキスト、同じ進度により、①ファッションコースクラスはオンライン10回対面5回の混合授業、②フードコースクラスは対面15回の授業を行ったが、アンケート結果の総合評価では①は3.46、②は3.15と差が見られた。②の対面授業では、教室で学生の理解度を見ながら進めたので高くなる予想していたが、その逆の結果となった。原因としては、②が時間割の1限であったこと、教室で発言や質問を促してもあまり出ないため、学生の声を拾う難しさがあり、学生の側からは聞くだけの時間が長い授業となった可能性がある。一方、①はZoomのチャット機能を使い、学生全員の意見や質問を出してもらう時間を多く作ることができた点が満足度の向上につながったと考えられる。今後は、対面でも意見を拾えるアプリSlidoなどを活用し、双方向の授業ができるよう改善していきたい。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

教育改善への取組として、相互授業参観をはじめとする学内のSD、FD研修には積極的に参加している。また、出張を伴わず受講できるオンラインの外部研修・講習にも積極的に参加している。2022年度は、以下の外部研修に参加した。

- ①立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科×日経ビジネススクール ソーシャルデザイン集中講座2022(2022年7月20日～9月14日全8回)
- ②株TREE主催 SDGs.TV公認ラーニングコーチ資格取得講座(2022年4月1日～5月10日)
- ③一般社団法人イマココラボ主催「2030SDGsゲーム」ファシリテーター研修(2022年6月22日、11月23日)
- ④プロジェクトデザイン(株)主催 The Action!～SDGsカードゲーム～Online公認ファシリテーター資格取得講座(2022年6月4日、6月23日)
- ⑤朝日新聞社主催 教員のための勉強会「ともに創る 深いSDGsと新たな学校文化」義務教育におけるデジタル教科書の導入について(2022年8月27日)受講
- ⑥一般社団法人Think the Earth主催Teachers' Gathering参加(SDGs教育の実践事例)(2022年9月4日)
- ⑦環境省主催 令和4年度教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修受講 ESD(Education for Sustainable Development)教育の推進(9月23日)
- ⑧上智大学主催 国連ウィーク「SDGsー食を考える」受講(10月20日)
- ⑨一般社団法人Think the Earth主催 SDGs for School認定エデュケーター資格取得講座受講(2022年12月6日、7日)
- ⑩一般社団法人アート教育振興会主催 アートマインドコーチング アドバンストコース(対話型鑑賞法)資格取得講座受講(2023年1月13日～2月2日計4回)心理的安全性を担保した学びの場で、学生との対話から自己肯定感を高めるスキルの習得
- ⑪消費生活アドバイザー(兼 国家資格 消費生活相談員)二次試験合格、登録(2023年2月1日)衣・食・住・経済・法律分野の最新知識の習得と消費者教育スキルの向上

1. 短期目標

- 1)SDGsのファシリテーターとしての経験と、新たに得たアートマインドコーチングの対話のスキルを活かし、アクティブラーニングの効果を高め、自己肯定感と自主性を引き出す教育の実践
- 2)湘北版SDGs教育のさらなる充実と高大接続教育での貢献
- 3)成人年齢引き下げ後の若年層を対象とした消費者教育の充実

2. 長期目標

- 1)卒業後、学生が直面する正解がない様々な課題に対し、諦めることなく立ち向かえるレジリエンスを身に付けられるような教育の実践
- 2)今日的課題を学びに結び付けるような教材の開発

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【金曜・4限 31280001 [医療業界研究] 築瀬 千詠】

今年度は満足度を示す設問9が3.29と低かった。この科目は2名の教員の共担(5回と10回の分担)科目であるため、もう少し詳しい分析が必要であるが、前半5回はテキストに沿って講義を聞く授業であり、入学後間もない4~5月の金曜4限で週の疲れが出ていると思われ、寝ている学生も散見された。後半10回は、ゲストスピーカー(医療業界で活躍する卒業生や、調剤薬局、医療機関の管理職の方)から講話を聞いて質問したり、映像資料を見て医療現場の実態を知るといった内容で、毎回リアクションペーパーを提出させるため、寝てしまう学生はいなかった。今後の改善策としては、前半5回の講義においてもグループディスカッションや発表などを採り入れて寝かせない工夫をしたり、後半10回と少し順番を入れ替える(交互にするなど)ことで、講義で教わる内容が、ゲストが講話で触れる医療系資格の取得に直結した大切な学びであることを自覚させるようにしたい。また、後期は資格対策科目が金曜3, 4限連続となるので、前期のこの講義において、90分の講義を寝ないで聞ける学習習慣を身につけさせるよう対策を考えたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・2限 30250501 [現代女性の社会学] 築瀬 千詠】

同じ科目を3クラス担当した。ポイント平均値の傾向は3クラスとも類似した傾向を示している。中でも値が最も高いこのクラスでは、設問B群(4~9;7を除く)のポイント平均値は3.67~3.78で、速さ、わかりやすさ、資料(授業用PPT、ビデオ等)の適切さで3.78を得ている。2年生の前期は就職活動で自分の卒業後のキャリアプランを考える最適な時期であり、身近な女性の多様なライフコースの事例を学生自身にインタビューさせたり、統計データを用いて女性の高等教育機関への進学率の変化や、働き方、性別による賃金格差、晩婚化・晩産化・少子化の傾向を把握してもらい、結婚→退職→専業主婦といった単線ではなく、複線的な生き方について学ぶ機会を提供した。講義科目であっても、ドラマ「逃げ恥」を教材に、もしも専業主婦の無償労働に報酬が発生したら?という問いを考えさせたり、SDGsのカードゲームによるアクティブラーニングを採り入れることにより、「講義内容は全て将来の自分に関わること」という認識を持たせることができたと思われる。その結果、設問3の学生の取り組みに関する自己評価が3.70と高くなったと考えている。なお、オンデマンド授業を4回実施したが、統計データ説明の回など繰り返し見たい内容に充てた結果、自由記述でもわかりやすかったとの評価が得られた。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・1限 26251502 [オフィスワーク演習] 築瀬 千詠】

入職以来、フードコースのこの授業を担当してきたが、アンケート結果(3.15)に関しては、今年度が最も低い評価になったと思われ、今後要因分析をしていきたい。

現時点で考えられる外的要因としては、時間割配置(木曜日1限、2限がスポーツの授業であること)から、1限のこの授業が学生にとり負担感があつた可能性がある。また、教員側の時間配分の配慮が不十分で、終了チャイムより延びる回もあつたので、スポーツの準備で着替えたい学生の不満をつのらせてしまった可能性もある。

同じ科目を金曜4限にオンライン10回対面5回で実施したファッションコース生のアンケート結果は3.46であった。対面授業では挙手で質問をしたがらない今時の学生気質からすると、オンラインの授業のほうがチャットで一人一人の声を挙げやすく、それに教員が答えることで満足度が上がる部分もあつたかもしれない。また、後期終わりにファッションコースの学生に聞いたところ、対面より在宅でオンライン受講のほうが嬉しいとの割合が多かつた。この点も1限の対面授業だつたフードコースとの差が出た要因の一つと考えている。

授業内容について

この授業で扱う、敬語、ビジネスマナー、電話応対、来客応対、ビジネスレター作成、ビジネスメール作成のスキルは、就活や就職後に役立つ内容であることを意識した声掛けを行いながら授業を進めたが、難易度について学生に問うと「難しい」と回答する学生の割合が年々増えていると感じる。高校卒業までに身に付けているはずの国語力がこちらの想定以上に落ちてきている(入学者の学力レベルが下がっている)可能性があり、授業のスタート地点を学生に合わせて中学生レベルからスタートさせる必要があるかもしれない。入学後の日本語プレイスメントテストの結果も参考にしながら、今後、授業そのもののレベルについて検討していきたい。湘北生の国語力をいかにして向上させるかについては、LA科目でも重要なポイントになっていくと考えている。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながつたと考えられる点》

【水曜・3限 30204006 [ゼミナールⅡ] 築瀬 千詠】

ゼミナールでは、少人数(17名)クラスであるメリットを活かし、一人一人の声を聞く機会を多く作っている。

L学科では、専攻コースと受講科目の関係から、所属コースが異なる学生同士の交流が少なくなりがちであるが、私のゼミはファッションコース以外の4コースが混在するので、コースの垣根を越えて活動できるよう工夫した。

授業では、映像作品を鑑賞後、SDGsの17の目標を意識したテーマを選び、調査して、各自10枚程度のPPTを作成しプレゼンを複数回実施させている。この学びを通じ、人前で自分の考えを自信を持って話せるようになったとの感想が複数寄せられていることから、今後もこうした取り組みを継続・発展させていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながつたと考えられる点》

【月曜・4限 R3204501 [女性のライフスタイル論] 太田 奈緒】

卒業生のお話をオンデマンドにして、それを見た翌週に関連した内容を行うことで、自分事として考えられたと思われる。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
✓	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

2022年度学長賞受賞(SDGs教育の全学展開における成果に対し、生活プロデュース学科全員が受賞)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

2022年度学長賞受賞(SDGs教育の全学展開における成果に対し、生活プロデュース学科全員が受賞)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	31280001	医療業界研究
前期	生活プロデュース	1	R4288001	生活とSDGs
前期	生活プロデュース	2	30203506	ゼミナール I
前期	生活プロデュース	2	30250501	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2	30250502	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2	30250503	現代女性の社会学
後期	生活プロデュース	1	26251501	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	26251502	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	30204006	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	生活プロデュース	2	R3204502	女性のライフスタイル論

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	R4288001	生活とSDGs
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R5280001	ヘルスケア業界研究
前期	生活プロデュース	2	30203505	ゼミナール I
前期	生活プロデュース	2	30250501	現代女性の社会学
前期	生活プロデュース	2	30250502	現代女性の社会学
前期	リベラルアーツ(全学科)	1	R5LA5001	湘北スタートアップセミナー
後期	生活プロデュース	1	26251501	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	26251502	オフィスワーク演習
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	R5289501	SDGsと社会デザイン
後期	生活プロデュース	2	30204005	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	講師
教員氏名	奥脇 菜那子

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科の教員として、主にファッション・衣生活に関する授業を担当している。2023年度の担当科目は、別記のとおりである。

ファッションを通して自分自身や周りの人たちの生活をより豊かなものにすることができる人材の育成することを目指し、ファッション分野の知識や技能を修得するとともに、学んだことを生活の中で活かすことができるような授業展開および課題設定に取り組んでいる。また、他者と関わりあいながら、協創・共創する力を養うことを重視している。

「色彩学」および「パーソナルカラー入門」では、色彩学の理論を自分自身の生活やビジネスシーンで生かすことができるようになることを目指し、学んだことを実生活に取り入れることができるような課題設定を行っている。

「ファッション基礎実験」ではグループワークにより仲間と共に試行錯誤しながら実験に取り組むことにより、協力してや課題に取り組む力や、自ら考え課題を解決する力の育成を目指して指導に当たっている。

「リビングケア」では、ファッションを取り巻く社会問題を自分事として考え、洗濯などの身近な生活行為から問題解決に取り組むことができるようになることを目標としている。

また、課外活動では、学友会執行部イベント企画部門の顧問をしている。学内イベントの企画・運営を通して学生たちが仲間と協力して何か創り上げることの喜びや人と人が関わりあうこと大切さを感じることができるような活動になるような指導・支援に努めたい。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、自分自身や社会において関る人々の生活課題をとらえよりよい生活を創造することができる「生活プロデューサー」を育成することであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視していく。

1)ファッションを通して、自分自身や周りの人たちの豊かな生活を創造することができる人材を育成すること。

2)他者と関わりあいながら、協創・共想・共創する力を身につけること。

3)試行錯誤を繰り返し、自ら考え課題を解決する力を養うこと。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を取り入れたいと考えている。

1)「パーソナルカラー入門」では、色彩学の理論を生活やビジネスシーンで生かすことを目指している。自分自身や身近な人のパーソナルカラー分析やファッションコーディネートなどを課題とすることで、学んだことを実生活に活かしながら体得することができるような課題を設定している。また、グループワークにおいては、好みのファッションのテイストが異なる相手とパーソナルカラーの分析やファッションコーディネート課題に取り組むことで、身近なところから、異なる意見や価値観を理解することやお互いの意見を活かしあいながらアイデアをブラッシュアップすることの大切さを学ぶ機会となるよう工夫していく。

2)「色彩学」においても、学修したことを実生活に活かしながらカラーコーディネート力を磨くことができるよう、通学時のファッションコーディネートに配色の技法を取り入れ、コーディネートのポイントを発表させる機会を設けている。

3)「ファッション基礎実験」では繊維・衣服材料に関する基礎知識および技能の取得だけでなく、グループワークにより仲間と共に試行錯誤しながら実験に取り組むことにより、協力してや課題に取り組む力や、自ら考え課題を解決する力を養うことができるように指導に当たる。実験中には、「想定される実験の結果」や「効率よく実験をすすめるためにはどうしたらよいか」、「実験結果から分かったことや考えたこと」などについて話し合うように助言を行い、実験に失敗したときは、「失敗だった」で終わらず、なぜそのような結果になったのか、失敗からわかること、学ぶことができることを見つけ、次回の課題に活かすことができるようサポートしていく。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

--

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標 (今後どうするか)

--

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

(記載なし)

(記載なし)

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
	学生による授業評価アンケート	
	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
後期	生活プロデュース	2	22213001	リビングケア

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	25205001	色彩学A
前期	生活プロデュース	1	28205501	ファッション基礎実験
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	1	R5208501	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	1	R5208502	パーソナルカラー入門
前期	生活プロデュース	2	30203508	ゼミナール I
後期	生活プロデュース	1	22207001	ファッションデザイン論
後期	生活プロデュース	1	28266001	ファッションビジネス論
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	22213001	リビングケア
後期	生活プロデュース	2	22214501	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	30204008	ゼミナール II
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	講師
教員氏名	清水 一毅

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は、本学生活プロデュース学科の教員として、主に心理学に関する授業を担当している。2022年度の担当科目は、別記のとおりである。

心理学は複雑化する社会で生活するなかで、基盤となる人間関係や物事のとらえ方、学習の理論といった内容を含んでいることから、ただ知識を獲得するのではなく自分と関連付けて活用できるよう指導していく。

「心理学」では心理学の多岐にわたる分野の概要を伝えるとともに、日常生活にちりばめられている心理学の理論を知ること、心理学を身近に感じられることを目標としている。

「発達心理学」では、ひとは一生をかけて発達するという生涯発達の視点に立ち、これまでの自分、現在の自分を発達の観点からとらえることで自己の認識を深めることを目標としている。

「自己理解の心理学」では心理学で用いられるワークを通して、自分自身のパーソナリティや思考の癖、人間関係について気づき、そこから自己理解を促していけるよう指導する。

「ゼミナール」では、学生が自ら考えた活動を実行するなかで、目的を設定し、その目的に対しての手段を選択する。その過程を検討し、実践していくことを通じて自ら考え、行動できるようになることを目的としている。

私の教育の責任は、これらの教育活動を通じて、学生が社会のなかで自分らしく生きる力の基礎を確立する助力になることであると考えている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 他者との関わりの中で、自分を知り、自己を確立していくこと。

他者と関わり合うことで、自分のコミュニケーションの取り方や物事の考え方、自分と他者の違いに気づくことができる。このような気づきは自己分析を行ううえでも役立つ。

2) 知識を覚えるのではなく、必要な情報を自ら得て活用できる力を育めるように指導すること。

現代社会において情報機器の発達から、知識を多く記憶することよりも、自ら情報にアクセスし、正しい情報を判断して収集し活用することが重要であると考えている。

3) 自ら考え、行動する力を養うこと。

興味関心のあることに対して挑戦することは、自分の知識や経験の幅を広げるためにとても大切なことである。そのため、少しでも「やってみようかな」と悩んでいることには積極的に取り組み、いろいろな経験を得られるよう促していきたい。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、上述の考え(教育の理念)を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行おうと考えている。

1)「心理学」では、心理学の理論が日常生活でどのように活かされているか実例を交えて体験し、そこで得た自分の考えを周囲の人と共有し合うことで様々な考え方に触れる機会を作れるよう意識していく。また、授業中に調べ学習を取り入れることによって教員から教えられるだけでなく、自ら調べ学ぶこと、調べた内容を発表することができるように工夫していく。

2)「発達心理学」では、発達理論について学び、その内容と自分を照らし合わせることを通して、学んだ情報を自分に関連付ける能力が育まれるよう工夫していく。また、映像資料を用いることで、学んでいる内容をより身近に感じられる機会を作るようにする。

3)「ゼミナール」では、活動計画を作成し実行することで自ら考え動くことができるよう指導していく。また、実行後に振り返りの時間を持つことによって次回の計画に活かせるようにする。個人での計画やグループでの計画を織り交ぜることによって、段階的に行えるよう工夫していく。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

2022年度の学生による授業評価アンケート結果は、「心理学B」「自己理解の心理学」について3.59と比較的高い評価であった。自由記述においても「ただ座って聞くだけの座学ではなかったため、90分が特に辛いということも無く、毎回楽しかった」とあった。これは、ワークや演習を毎回取り入れていたことが、学びに関する楽しさにつながったからではないかと考える。

しかし、授業前半に行っている前回の授業の振り返りについて、「前回の振り返りが長い」という意見が何件も見られたことから、振り返りの要点を捉えられるようにまとめ、説明するようになりたいと考える。

学生支援については、学生と一緒にCS課を訪ねることで就職活動の支援をしたことが成果としてあげられる。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善への取組みとして、相互授業参観をはじめとする学内のFD活動に積極的に参加している。他の教員の授業を見学したり、自分の授業に対する教職員からのコメントを活用したりすることで授業内容を構成する手がかりとしている。また、新しい知見を学ぶために、関連書籍や論文を閲読している。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

- 1) 演習用ワークの種類を増やし、学生がより興味を持って取り組めるよう工夫をする
- 2) 担当科目の内容にDX教材を取り入れる

II. 長期目標

- 1) 生活や仕事につながる資格の検討と取り入れ
- 2) 地域連携のできる内容の導入

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・3限 22241001 [心理学A] 清水 一毅】

空欄部分を作り、記入式の授業資料の作成を行った。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・2限 22241002 [心理学B] 清水 一毅】

レポート作成時に文字数指定があったがマス目がなかったとの指摘があったため改善する。授業資料を各自印刷ではなく、印刷して配布してほしいとの要望があったため検討する。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 25238501 [創作絵本の制作] 清水 一毅】

ひとりでひとつの絵本を制作し、発表を行うことで様々な作品に触れることができた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【水曜・3限 30203509 [ゼミナールⅠ] 清水 一毅】

学生の興味を基に題材を考えためよかったが、改善点として一貫性のある内容にできるとよい。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・1限 26BU0106 [キャリアテラシー(社会人基礎)] 大塚 映】

いつもマイクを持って講義をしていたので、マイクを使わないほうがよい状況もあるということをも特に意識をしていなかったが、忘れ物チェックなどの際には今後マイクは控えたほうがよいのかなとも思う。テキストの内容が今の時代として古いところがあるので、使用するテキストを今後見直していただければと思う。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【月曜・3限 22235501 [発達心理学] 清水 一毅】

前回授業のリアクションペーパーをもとにした振り返りの内容を工夫する。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・2限 26236501 [自己理解の心理学] 清水 一毅】

ワークや演習を数多く取り入れることにより、主体的に学習することができた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・2限 26236502 [自己理解の心理学] 清水 一毅】

授業内ワークでGoogleフォームを活用することにより、より多くの意見に触れる機会を作ることができた。

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【水曜・3限 30204009 [ゼミナールⅡ] 清水 一毅】

就職活動支援について、より早い段階から取り組めるよう来年度の計画に取り入れる。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
✓	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

(特になし)

・関連リンク・別途資料

(特になし)

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	22241001	心理学A
前期	生活プロデュース	2	22241002	心理学B
前期	生活プロデュース	2	25238501	創作絵本の制作
前期	生活プロデュース	2	25238502	創作絵本の制作
前期	生活プロデュース	2	30203509	ゼミナール I
前期	就業力育成(生活)	1	26BU0106	キャリアリテラシー(社会人基礎)
後期	生活プロデュース	1	22235501	発達心理学
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	26236501	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	2	26236502	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	2	30204009	ゼミナール II
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0209	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0409	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0509	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22241001	心理学A
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	2	22241002	心理学B
前期	生活プロデュース	2	22241501	子どものワークショップ演習 II
前期	生活プロデュース	2	30203507	ゼミナール I
前期	就業力育成(生活)	1	R5BU0105	私のキャリアデザイン
後期	生活プロデュース	1	22235501	発達心理学
後期	生活プロデュース	1	22237501	子どものワークショップ演習 I
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	26236501	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	2	26236502	自己理解の心理学
後期	生活プロデュース	2	30204007	ゼミナール II
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0208	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0408	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0508	インターンシップリテラシー
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上

湘北ティーチング・ポートフォリオ

年度	2022 ~ 2023
所属学科	生活プロデュース学科
職名	講師
教員氏名	二見 総一郎

1. 教育の責任（何を行っているか）

私は本学生活プロデュース学科の教員として、主に、子どもや家族に関する科目を担当している。2022年度の担当科目は別記のとおりである。

子どもサービスコースの学生たちは、将来子どもと関わりのある職業を志望している学生が多く、子どもに関する基礎知識の習得が望まれている。また、生活プロデュース学科全体の学生が履修する科目も担当しているため、日々の生活やライフサイクルを学問的な視点や国際的な視野から相対化して理解し、自分の言葉で表現する力が重要となってくる。

「児童福祉論」では、現在の子どもを取り巻く様々な問題について検討することで、子どもにとって望ましい福祉の在り方とはどのようなものか、考える視点を獲得することを目指している。

「生活とSDGs」では、17個の世界共通の目標を学習することを通して、国際的な広い視野で問題を考えて自分の生活範囲から解決に取り組んでいく「Think globally, Act locally」の技法を身に付けることを目的としている。

「家族援助論」では、家族のライフステージの変化を学びながら、家族に起きている現象を社会的・文化的な状況の中で捉え、さまざまな環境との相互関係の中で人が生きているさまを理解し、家族に関する問題について自分事として考える視点を獲得することを目指している。

「ゼミナールⅠ」および「ゼミナールⅡ」では、子どもをめぐる社会的な問題について、自分の具体的な体験とつなげて考えることを通して、課題を自ら考え、それについて調査する力、自分の意見を自分の言葉で表現することができる力の育成を目的としている。

2. 教育の理念（どのような考えに基づいて行っているか）

私は、本学の教育活動において、次の3点を重視している。

1) 学生の「他者と共生する力」を高める教育

学生が卒業後に生きていく社会は、様々な背景を持った人たちが共に生きている社会である。本学の教育理念である「社会でほんとうに役立つ人材」とは、この多様な人たちが生きていく社会において、自分と異なる他者を理解しようとし、コミュニケーションを取り、協力しながら生きていく力を持った人であると解釈できる。そのため私は、2年間の大学生活を通して、学生たちが、様々な背景を持つ人たちの多様性について学び、自分も他者も尊重できる「他者と共生する力」を育む教育を重視したいと考えている。

2) 学生が安心して学べる環境づくり

2019年度から2021年度の3年間本学で非常勤講師として「キッズスペース論」を担当させていただいた中で、学生たちの少なくない人数が、経済的に不安定な状況にあたり、過去に自分の意見を認めもらう経験が少なかったり、学業に対する苦手意識が強かったりと、様々な背景を持っていたことに気づかされた。そのため、学生たちが不安なく学業に取り組めるようにするためにも、わからないことはすぐに相談でき、自分の意見が周囲に受け入れられ、ありのままの自分で肯定されるような、安心して学べる学習環境づくりが重要であると考えている。

3) ケアをベースとした教育および学生指導

本学に通う学生たちの中には、家庭の事情や経済的な事情で悩みを持っている学生たちも少なからずいるため、そのような学生の学校における生活をサポートするためには、ケアをベースとした関りが重要である。学生が困りごとを抱え込んでしんどくならないためにも、困ったときに相談しやすく親しみやすい教員を目指したいと考えている。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか）

私は、教育の理念を実現するため、担当する授業において、次のような工夫・方法を行っている。

1)「児童福祉論」「家族援助論」では、コメントシートの紹介やICT機器・「Sli.do」というアプリを用いたアクティブラーニングによって、学生同士がお互いの多様な価値観に触れながら、自分の意見が受け入れられる体験をできるよう工夫している。また、内容としても、社会的マイノリティの問題を扱うことにより、多様性にまつわる問題を自分事としてとらえてもらうよう指導している。

2)「生活とSDGs」では、初めて聞いた学生がSDGsの17の目標を難しいと感じることが多いため、視聴覚教材を用いて学習に対する苦手意識を払しょくするよう心掛けている。また、わからないと感じた学生がすぐに声をあげられるよう、ICT機器を用いて自由に発言できる場を設け、安心して学べる環境づくりを行っている。

3)「ゼミナールⅠ」と「ゼミナールⅡ」では、ただ一方的に知識を与えるのではなく、学生との双方向のやりとりを通して、学生が社会の問題を自身の問題と関連づけて考えられるよう指導している。またゼミ以外の時間においても、気軽に就活や大学生活の相談ができるよう、日常的な声掛けや一人一人と面談をするなどして、信頼関係を築くようにしている。

すべての授業において、ハラスメントにならないよう、威圧的な態度や強い言葉を用いないことを意識し、どんな内容であれ学生の意見をまずは受け入れる姿勢を大切にしている。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業について、2023年度の「児童福祉論」の授業評価アンケート結果は、「総合的にみてこの授業に満足しましたか？」という項目において「とても満足」が70.7%、「満足」が29.3%と、受講していた全ての学生にとって満足のいくものだと評価であった。また「家族援助論」においても、「とても満足」が77.8%、「満足」が22.2%であり、「ゼミナールⅡ」においても「とても満足」が37.5%、「満足」が62.5%と、全ての学生が満足したものであった。

このことについて学生のアンケートの記述から分析するに、適切な視聴覚教材の使用、学生のコメントシートへの応答、ICT機器を用いた発言のしやすさにより、わからない時や困った時にすぐに発言ができていたことが、学生の満足度につながっていたと思われる。

学生アンケートでは「slido を使うことで匿名だからじぶんの率直な意見がしやすいリアルタイムでほかの人たちの自分とは違う意見や考え方、一方で同じ意見と考え方も聞けることができたからとても良かったです。他の授業と違って授業を聞いて思ったことだけじゃなくて授業に関係ないことや質問など自由に書いていい感じだったので感想が書きやすいなと思いました」という意見があり、学生が安心して学べる環境づくりも一定程度は達成できていたと思われる。

学外活動については、ゼミを中心に、本厚木ミロードとのコラボイベントである「あわてんぼうの湘北サントとクリスマスパーティ」を企画・実行し、イベントを無事に成功させた。また、イベント後に本厚木ミロードの支配人に来ていただいて反省会を開き、実際に企業で働いているプロとのやりとりを通して学生たちの学びが深まるよう工夫した。

学生支援については、ゼミの所属に関わらず、支援を必要としている学生との面談を定期的に行うことを通して、課題へのアドバイスなどの学習面や、生活面、精神面でのケアを行った。このことは、「ゼミナールⅡ」におけるアンケート結果にて「先生は熱意ある指導をしてくれる」が「強くそう思う」62.5%、「そう思う」37.5%であったことに表れている。

5-1. 教育の改善に向けた今後の目標（今後どうするか）

教育改善に向けた取り組みとして、まずは授業内でのコメントシートや授業評価アンケートなど、学生からのフィードバックをすぐに反映するようにしている。また、相互授業参観をはじめとしたFD研修にも積極的に参加し、教育改善に役立てている。

今後の教育に関する短期目標、長期目標はそれぞれ次のとおりである。

I. 短期目標

1) 学生がやりがいをもって取り組める授業づくり

ゼミナールにおいて、学生から「もっとやりがいがあることにもチャレンジしたかった」という意見があったため、2023年度は学外に出向いて実際の現場を体験したり、グループでプロジェクトに取り組んだりといった、学生の学びを深める探究学習を推進する。

2) SDGs教材の開発

2023年度よりSDGs応用科目「SDGsと社会デザイン」が始まるため、SDGsの視点から深く学べる教材を開発する。

II. 長期目標

1) オンデマンド授業の充実

DX化を進めるため、IDについて学び、学生にとってわかりやすく学び甲斐のあるオンデマンド授業の作成を実践する。

2) 学生のケアの充実

学生の必要に応じて専門機関と連携をしながらケアをできるシステムの構築を目指す。

3) 学生生活の充実の支援

コロナにより縮小した学生活動が再び盛り上がるよう、学生活動を支援する。

5-2. 教育の改善に向けた今後の目標 (授業評価アンケート結果を踏まえた振り返り)

■前期科目■

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 R4288002 [生活とSDGs] 二見 総一郎】

アンケートや学生たちのコメントシートから、SDGsについての海外の事例を視聴覚教材を用いて解説したことが、教え方が「とてもわかりやすい」81.3%「わかりやすい」18.8%という結果につながっていた。SDGs.TVやユニセフの動画など、きちんと厳選された動画から選ぶことが重要だと感じた。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・3限 R4288501 [児童福祉論] 二見 総一郎】

コメントシートの紹介やsli.doを用いて学生の意見を匿名で全体に共有することが、「障害」やジェンダーなどセンシティブな内容を扱う中で、学生が安心して学習できる環境づくりに大いに役立っていると感じた。また、学生の興味関心に沿って授業で扱う題材を変更したため、「シラバスの内容と合致していたか」という質問項目は平均3.45ポイントとなっているが、「授業の満足にしたか」という質問項目は平均3.72ポイントとなっていたため、今後も学生の関心や意欲に基づいて教材を選び授業を進めていきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【木曜・3限 R4288502 [児童福祉論] 二見 総一郎】

アンケートやコメントシートから、学生たちにとって「障害」や「ジェンダー」といったテーマが、正解がなく難しい問題でありこれまで避けてきたものであったこと、一方で、授業を通してきちんと考えなければいけない大事なテーマだと感じられたことがうかがえた。

知識のみに偏ってしまわないように当事者たちの視聴覚教材を用いたが、「担当教員が提示・配信した授業資料、ビデオ、パワーポイント等は、授業を理解するうえで適切でしたか」という質問項目の回答が3.73ポイントと高かったため、今後とも学生たちの問題意識に沿った教材を選んでいきたい。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【火曜・4限 26BU0105 [キャリアリテラシー(社会人基礎)] 大塚 映】

社会に出て仕事をする心がまえや知識などについて、テキストやスライドも活用しながら授業を進めたので、理解力がアップし実際に身につけられたスキルもあったのではないかと思われる。

■後期科目■

《アンケート結果を受けて、改善すべき点》

【木曜・3限 22214502 [ファッションプロデュース] 太田 奈緒】

ファッションショーの裏方用の授業であったが、今年度から本厚木ミロードでもファッションショーを行うこととなり、湘北組とミロード組に分かれて授業を行った。初年度ということもあり、ミロード側の要求が後手に回ることがあり、準備期間が少なかったと感じた学生が多かった。次回からはこちらもミロード側も経験出来たので違った対応が出来ると思われる。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・2限 30268002 [家族援助論] 二見 総一郎】

ドキュメンタリーの視聴やゲストティーチャーを招いての座談会など、多様な学びを導入したことが、学生の満足度の高さにつながっていたと思われる。

《授業における取組の中で、アンケート結果の向上につながったと考えられる点》

【月曜・4限 R3204501 [女性のライフスタイル論] 太田 奈緒】

卒業生のお話をオンデマンドにして、それを見た翌週に関連した内容を行うことで、自分事として考えられたと思われる。

6. エビデンス(一覧)

・各項目の記述の裏付けとなるエビデンスを挙げてください。

チェック	資料名	特記事項
✓	授業担当科目一覧	
	シラバス	
✓	学生による授業評価アンケート	
✓	授業参観コメントシート	
	授業改善計画書	
	教材・配布資料	
✓	教育に関する活動や受賞記録など	

・上記以外のエビデンス

「あわてんぼうの湘北サンタとクリスマスパーティ」報告会資料

・関連リンク・別途資料

https://drive.google.com/open?id=1ZJSzh3LeHkwR5VD_qbyboxvzZKZDs2UH

・特記事項

(特になし)

7-1. 担当授業一覧(2022年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	22202501	生活プロデュース概論
前期	生活プロデュース	1	R4288002	生活とSDGs
前期	生活プロデュース	1	R4288501	児童福祉論
前期	生活プロデュース	1	R4288502	児童福祉論
前期	生活プロデュース	2	30203508	ゼミナール I
前期	就業力育成(生活)	1	26BU0105	キャリアリテラシー(社会人基礎)
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	30204008	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	2	30268001	家族援助論
後期	生活プロデュース	2	30268002	家族援助論
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	生活プロデュース	2	R3204502	女性のライフスタイル論
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0208	春季インターンシップ(長期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0408	春季インターンシップ(短期)
後期	インターンシップ(生活)	1	26IS0508	インターンシップリテラシー

7-2. 担当授業一覧(2023年度)

開講期	区分	学年	科目コード	科目名
前期	生活プロデュース	1	R4288002	生活とSDGs
前期	生活プロデュース	1	R4288501	児童福祉論
前期	生活プロデュース	1	R4288502	児童福祉論
前期	生活プロデュース	1	R5202501	ライフスタイルマネジメントの基礎
前期	生活プロデュース	2	25236001	子ども・教育・社会
前期	生活プロデュース	2	30203506	ゼミナール I
前期	就業力育成(生活)	1	R5BU0106	私のキャリアデザイン
後期	生活プロデュース	1	30204501	ライフキャリアプランニング
後期	生活プロデュース	1	R5289501	SDGsと社会デザイン
後期	生活プロデュース	2	22214502	ファッションプロデュース
後期	生活プロデュース	2	30204006	ゼミナール II
後期	生活プロデュース	2	30268001	家族援助論
後期	生活プロデュース	2	30268002	家族援助論
後期	生活プロデュース	2	R3204501	女性のライフスタイル論
後期	リベラルアーツ(総合)	1	R5LA0501	生活に役立つ教養とSDGs

以上